

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

二〇一五年度入試問題

国語

第四回（二月二日午後実施）



二〇一五年度

入学試験問題

(二月二日午後)

国語

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙九ページ、解答用紙二枚を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) お中元の進物が届く。
- (2) 仲間が結束する。
- (3) 心を一にする。
- (4) 他国と交易する。
- (5) 虫の音。
- (6) 人のイヒヨウをつく。
- (7) テンラン会を見に行く。
- (8) スイチヨク跳び。
- (9) セイキユウに事を運ぶ。
- (10) 興奮をサます。

二

次の(1)～(5)の()にあてはまる漢字一字として正しいものを、あとのア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) そのレコードだけは喉のどから()が出るほど欲ほしいのです。

(2) 彼女の司会も()についてきた。

(3) 彼女と姉とでは()とすつぽんだ。

(4) あいつは人前では()が浮うくようなお世辞を言う。

(5) 彼かれを追いかけてたくて()も楯たてもたまらなくなり、飛び出した。

ア 矢 イ 月 ウ 齒 エ 手 オ 板

三

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

(著作権上の問題により文章は掲載できません。類似問題については直接お問い合わせ下さい。)

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ミズナラやヒメコマツの混ざる雑木山の峠を越えようと、目の前にブナの谷がひろがっていた。それは、おだやかな秋の陽ざしを浴びて、うたた寝をしているような森だった。見上げると古木の幹にはクマゲラの掘った巣穴がみえる。倒木からはナメコやヒラタケが芽を出している。大地にブナの枝や葉の影が映っていて、森は豊かな秋を迎えていた。

青森県の白神山系、私はようやくこのブナの里に来た。

「（ア）」

同行して下さった営林署の次長氏が言った。それは仕方ない。ブナは山の樹々のなかでは短命な木で、その寿命はたいしては三百年くらいしかないのだから。目の前の谷を直径一メートルほどのブナの樹々が静かに谷を埋めている。

日本の木のなかでもっとも長生きしているのは、屋久島の山の中腹でいままも元気に暮らす縄文杉、推定年齢七千二百年である。この島では樹齢千年以上の杉が屋久杉で、九百歳の杉でも小杉としか呼ばれない。

森の時間はゆつくりと流れている。自然に芽生えた木が一人前の表情をみせる頃には、ほぼ三百年の月日が流れ、成長のはやい植林地の杉や檜でも二百年を経てようやく壮年の風貌を整える。屋久杉とくらべれば、はかないものでしかない本州の杉も、その一生を終える頃には千年の歳月が過ぎているのである。

長い時間スケールによって保障された時空だけが、森の林相を安定させる。こんな森のなかでは、老木が倒れ、新しい世代の木が次の森を担う、そんな変わらない自然の物語がゆつくりと、ゆつくりと回転している。

だが森はときには気ぜわしく変化をみせる。それは森の安定を崩す出来事にみまわれたときだ。台風は時々森をなぎ倒し、津波は森を一瞬にして枯死させる。山火事、山の崩落、伐採や道路開削のような人間によって加えられる変化。そのとき森は新しい安定を求めてさまよい、忙がしく動きはじめる。山の樹々が枯れ、倒れ、森の樹種転換がすすむ。

それにしても、森とは何とやさしいものだろうと思うことがある。なぜなら森は、いつでも与えられた条件を受け入れてくれるのだから。崩落した山の斜面に芽生えてくる樹々、鬱陶しいほどに植えられた植林地の森でも、火山灰の舞い降りる森でも、森はその条件下で精一杯森であろうとする。

ゆつくりと時を刻む森の時間の奥には、^②そんな森の精神が流れている。すべてを受け入れながら歩む森の時空がここにはある。そしてその森は、そのときどきに表情を変えて私を迎えた。寂しそうな森、怒っているような森、さわやかな表情をした森も、不機嫌げんそうな森も、その力を誇示こするような森もあった。ときに森はのんびりと葉をひろげ、ときに深い眠りねむにおちていた。

私たちの近代社会は、こんな^③森の営みの時空と人間の営みの時空の間に矛盾を生じさせた。自然の時空と人間の時空が、人間たちの暮らしをとおして、あるいはその地域の風土のなかで共振する時代に終止符が打たれた。人間たちは自然を資源、それも多くの場合は経済的資源としてとらえるようになって、めまぐるしく変わる自分たちの時間の尺度の世界に自然を追い込み始める。森の時空は無視され、刹那的な時間感覚で森をみるようになる。こうして森の時空の破壊がはじまり、不機嫌な表情の森がひろがりはじめた。

だがそのとき人間たちも、また永遠という名の時空を失ったのである。永遠に変わることのない価値を保存することはできなくなつて、その時代とともに変わる価値に私たちは追いかけられるようになった。

だが、いま私たちはこのことへの反撃を開始している。自然保護という言葉の奥には、めまぐるしく変わりつづける社会のなかで、永遠という時空を失った人間たちが、その回復をめざそうとする無意識の意識が働いている、私にはそんな気がしてならない。自然の時空をこわすことのない新しい自然と人間の関係をつくりだす、そんな模索が様々な人々のなかではじまっている。

白神山系のブナの谷を降りると赤石川の源流が流れていた。その透明な水のなかでは岩魚が泳いでいた。^④岩魚は悠然と川を泳ぎ、そして水面に映ったブナの葉影の下に消えた。

森の旅をつづけていると、ときどき美しい森に出会うことがある。山奥に隠されていた眠るようにひろがる天然林の谷が、ふいにあらわれてきて私を驚かす。人工的につくられた植林地の森のなかにも、思わず足を止めてみとれてしまうような美しい森がある。

そんなとき私は考え込んだ。美しい森の基準とは何なのだろうか。私は何を基準にして、この森は美しいと感じているのだろうか。

考えてみれば、おかしなことなのである。山の木のなかに美しい木と美しくない木などあるはずはない。ところがそれがひろがりとなって森になると、確かに美しい森とそうではない森が生まれてくるのである。この差はどこにあるのだろうか。

美しい森のなかでは、私はその樹々がつくりだす豊饒な森の生活を感じている。主のような大木は、何百年もの風雪に耐えてきた威厳をもっていて、辺りを見下ろしている。若い樹々は大木のまわりに寄りそい、古木は次の世代の若木をかかえるように立っている。

もしかすると美しい森とは、森と（イ）の関係から生まれてくるのかもしれない。

森の時間、それは蓄積されつづける時間である。森の時間は過ぎ去るのではなく積み重ねられていく。

荒野にはじめて芽生えてきた草や木が土をつくり、動物たちの暮らしはそれを助けたことだろう。古木は倒れ、土に還り、再び森をつくりだした。ここでは長い長い過去の森の時間が、決して否定されることなくいつまでも生きつづけている。

とすると豊饒な森とは、過去の時間が幾重にも積み重なった森のことなのであるか。そして森のなかに豊饒な時間を感じるとき、私たちはその森を美しい森と感じるのであるか。

そう考えてみると、人間とは身勝手なものである。私たちの時間は、少なくとも近代以降の社会では、過ぎ去る時間としてつくられていた。過去の時間とは、まだ遅れていた時代の時間であり、私たちはそれを否定し、清算することによっていまを生きている。ところがそんな人間たちが、過去の時間の上にもいまの時間があるような森に出会うと、その森を美しいと感じる。

おそらく林業が森を荒らす行為だと批判された理由のひとつも、このことのなかにあったのであろう。一九七〇年代頃までつづけられた戦後の拡大造林は、大面積にわたってそれまではえていた樹々を切り倒し、その跡に同じ樹種、同じ年齢の幼木を一斉に植えるかたちでおこなわれた。戦後の林業は、過去の森の時間を清算し、全く別の森をつくることによって、森のなかの積み重ねられた時間を否定してしまったのである。あるいはそれは、森の時間をも、人間と同じように過ぎ去る時間に変えてしまおうとしていたのかもしれない。こうして多くの場所で、森は美しさを失った。

ところが人工造林地の森にも美しい森は確かに存在するのである。そこには、長い森の時間と友達のように付き合う人々がいた。そして気が付くと、私の友人のなかにも、自分の森をもちたいと思う人々がふえてきた。それは蓄積される時間への憧れのようにもみえた。

森を育てる労働は、もちろん経験やコツ、腕も必要だけれど、そのひとつひとつは結構単純な作業である。下草刈り、間引き、間伐、枝打ち、しかしそんなひとつひとつの作業が、そうしてそれを行う労働の時間が、けっして無駄になることなく森の時間のなかに蓄積されていく。毎日のように森を歩き、森の手助けをしながら、森と一緒に月日を積み重ねていく。

私たちは日々結構単純な作業をくり返しながら暮らしている。暮らしのなかでも、仕事のなかでも、ある意味では人間の一生は単純なことのくり返しである。ところがそのひとつひとつの作業は、常に何かのための手段になっていて、手段はその役割が終われば消え去っていく。そんな何も残らない自分の一生に対する倦怠感が、いま森の時間的世界に対する憧れを高めさせる。

おそらく現代人たる私たちは、様々な複雑な思いをいだきながら、森をみているのである。美しい森の前にたたずむ私自身とは何なのかを、いま私たちは問い返しているのである。

(内山 節『森にかよう道——知床から屋久島まで——』より)

問一 本文中の（ア）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不慣れな山歩きで大変でしょう

イ 巢穴のせいで木は泣いているでしょう

ウ 立派な木々ばかりでしょう

エ あまり大きな木はないでしょう

オ きのこ狩りには持って来いでしょう

問二 本文中の（イ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 植林 イ 人間 ウ 時間 エ 動物 オ 風土

問三 —— 線部①「津波は森を一瞬にして枯死させる」とありますが、その理由を自分で考えて説明しなさい。

問四 —— 線部②「そんな森の精神」とありますが、どのようなことですか。三十字以内で答えなさい。

問五 —— 線部③「森の営みの時空と人間の営みの時空」とありますが、それぞれどのようなことですか。本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。

問六 —— 線部④「岩魚は悠然と川を泳ぎ、そして水面に映ったブナの葉影の下に消えた」とありますが、この時の筆者の思いを示している一文を、本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。

問七

——線部⑤「おかしなこと」とありますが、何が「おかしなこと」のですか。次のア～オの中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一本一本の木には美醜しゅうはないはずなのに、その集合体である森という状態になるとそれが存在すること。

イ 荒れ地に芽生えた草や木が土をつくり、そこに生息する動物たちもまた、森の形成にかかわっていたこと。

ウ 人の手によって造られた植林地の森に、同じ樹種・年齢れいから来る均一的な美しさを感じてしまうこと。

エ 大木に周囲を圧するような威厳いげんを感じ、古木が次の世代の若木を守るかのように倒れたおずに立ち続けていること。

オ 人跡未踏せきの山奥おくに手つかずの美しい天然林が存在するにもかかわらず、滅多めつたに目にするのができないこと。

問八

——線部⑥「人間とは身勝手なものである」とありますが、その理由を本文にそって説明しなさい。

問九

——線部⑦「長い森の時間と友達のように付き合う」とありますが、それは何をすることですか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問十

——線部⑧「美しい森の前にたたずむ私自身とは何なのかを、いま私たちは問い返しているのである」とありますが、あなたなら美しい森の前にたたずんだ時、どのようなことを考えますか。二百字以内で書きなさい。

二〇一五年度 国語 解答用紙

(二月二日午後)

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

受験番号		

氏名	

得点	
	*

*印のところに、何も記入しないでください。

三

二

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

小計	
	*

一

(1)		(1)
(2)		
(3)		(3)
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		
(8)		(8)
(9)		(9)
(10)		
ます		

小計	
	*

小計	
	*

*実際の解答用紙はB4判です。

四

問一		問二	問三	問四	問五 森 人		問六	問七	問八	問九	問十																																

受験番号	-----	-----
------	-------	-------

	氏名
--	----

	得点
*	

	小計
四	
*	

*印のところは、何も記入しないでください。

二〇一五年度 国語 模範解答・配点 (二月二日午後)

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

受験番号	
------	--

氏名	
----	--

得点	100
----	-----

*印の文字は、何も記入しないでください。

一

(1)	しんもつ	(2)	けっそく	(3)	いつ	(4)	こうえき
(5)	ね	(6)	意表	(7)	展覧		
(8)	垂直	(9)	性急	(10)	冷ます		

二

(1)	エ	(2)	オ	(3)	イ	(4)	ウ	(5)	エ
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

三

各1点

小計	10
----	----

各2点

小計	10
----	----

小計

20

*実際の解答用紙はB4判です。

四

受験番号			
------	--	--	--

氏名	
----	--

*印のところは、何も記入しないでください。

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十
イ	海水に含まれる塩分が木や土をいためてしまうから。	与えられたどんな条件も受け入れ、精一杯森であろうとする精神	過ぎ去るのではなく積み重ねられていく積	森 み重ねられていく積 めぐるしく変わりつ	美しい森の基準とは何だろうか。	ア	人間は過去の時間を否定し清算することによって今を生きているのに、過去の時間を今に上なげる森を美しいと感じる。一方で、過去の時間を清算して別の森をつくることで人間の考えを押しつけたから。	森の手助け	

4点 4点 4点 4点
6点 6点 6点 6点
10点 10点 10点 10点
問 問 問 問
問 問 問 問 問 問
二 三 四 五 六 七 八 九 十

小計 四
* 60

*実際の解答用紙はB4判です。

合格者正解率

国語

第4回 2月2日午後 (%・100点満点)

① 漢字	1 5.3	2 89.5	3 0.0	4 86.8	5 63.2	6 15.8	7 78.9	8 81.6	9 0.0	10 50.0	
② 語句	1 94.7	2 73.7	3 100	4 84.2	5 78.9						
③ 視写	37.9										
④ 長文読解	1 86.8	2 13.2	3 38.6	4 60.5	5 15.8	5 2.0	6 0.0	7 52.6	8 38.2	9 39.5	10 35.3

☆合格者平均点 41.9

☆合格者最高点 65